

奥出雲町林地残材搬出に伴う自伐林家等支援事業

奥出雲町オロチの深山きこりプロジェクト（平成29年度概要版）

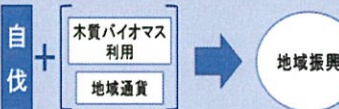
健全な森づくりをみんなに勧めたい！

イメージキャラクター
きこぼくん

経緯

平成19年から「健全な森を次世代へ」をテーマに活動をする仁多郡林業研究グループは、平成23年にNPO法人土佐の森・救援隊の林地残材の運搬収集システムを参考にした「自伐普及計画」を町長提案し、間伐等森林整備による公益的機能の発揮と地域通貨による地域振興を強く訴えました。

また、町では「バイオマスタウン構想」により町内2ヶ所の温泉施設にチップボイラーの導入が決定し、自伐された木材をチップボイラーの燃料として活用することで、この事業への支援と予算化が実現しました。

土佐の森方式「林地残材の運搬収集システム」
NPO法人 土佐の森・救援隊

奥出雲町バイオマスタウン構想

チップボイラーが導入された温泉施設



仕組み

全国的に広まる木の駅プロジェクトの奥出雲版。出荷者が持ち山で間伐材等を切り出し、集積場である仁多郡森林組合事業合同センター（亀嵩地内）へ持ち寄り、その売上げに町補助金を上乗せし、1t当り6,000円の商品券を出荷者に交付。一方、搬入された間伐材は森林組合でチップ化され、町内の2つの温浴施設（亀嵩温泉、佐白温泉）に供給。施設の熱源を木質チップとし燃料の代替えを図り、CO2の削減に貢献しています。

出荷開始に向けての準備

平成23年10月にNPO法人土佐の森・救援隊の中嶋健造氏による講演会と間伐材の集材・搬出研修会を開催し、翌年の平成24年4月には仁多郡林業研究グループが中心となりNPO法人もりふれ倶楽部、仁多郡森林組合、島根県東部農林振興センター雲南事務所、奥出雲町をメンバーとする実行委員会が設立され、伐木・造材研修を2回、森の健康診断を経て、実証開始（初出荷）を迎えました。

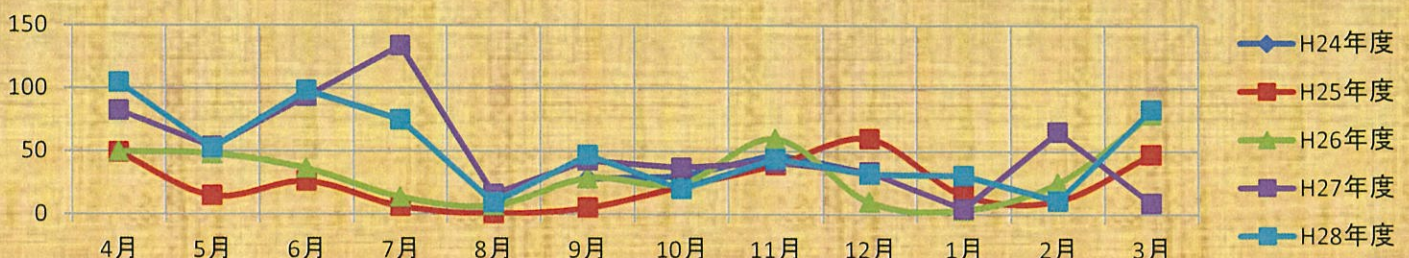
実績

年度別出荷量と商品券額の集計表

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
登録者数（人）	19	39	40	48	50
出荷量（t）	138.23	293.34	382.43	609.87	604.50
商品券額（千円）	828	1,758	2,289	3,659	3,627
流通総額（千円）	2,471	5,244	6,837	10,902	10,807

*間伐材等とチップ材の販売額及び商品券の交付額の合算額（流通総額）は、上乗せする町補助金額の6倍（経済効果）となっています。

年度別月別出荷量の推移（単位：t）



商工会加盟店

佐白温泉

亀嵩温泉

商品券で購入

出荷者

商品券6,000円/t

町補助金上乗せ
3,000円/t

実行委員会

間伐材等売上金
3,000円/t+税チップ
売上金

8,000円/t+税

チップ
材供給

仁多郡森林組合

自伐林家育成塾の様子



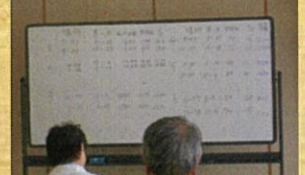
森の健康診断の様子



安全技術研修の様子

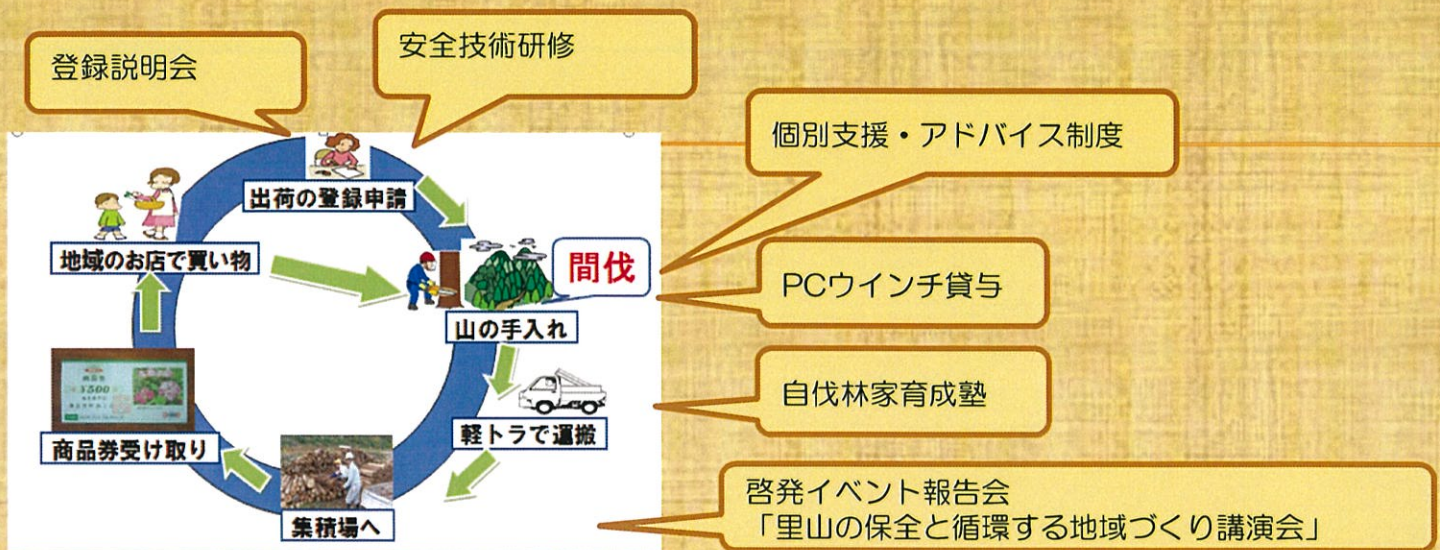


診断報告会



研修内容

登録とその後の支援・研修事業を下記の通り用意しています。安全に作業するためにも、研修を受講し技術を習得して下さい。



項目	内容	様式No.
登録説明会	プロジェクトの仕組み、登録方法、安全技術研修や個別支援・アドバイス制度について説明します。	①登録申請書、登録証（見本） ②変更申請書 ③商品券交換申請書、計量伝票（見本） ④出荷受入予定日
安全技術研修	登録者が必ず受講しなければならない研修で、④チェーンソーの目立てとワーク、⑥伐木と造材、⑦PCウインチを使った集材の3つの内容に分け、それぞれ5人の定員で開催します。	安全技術研修募集パンフ
集材機器の貸与	集材に使用するPCウインチ、林内作業者及び軽架線を申請に基づき貸し出す制度です。	⑤PCウインチ貸与申請書
自伐林家育成塾	自伐林家（副業を兼ねる）を育て、持続した集材・搬出を図るため、作業道（管理道）の敷設講習と森づくり講演会を中心に開催します。	自伐林家育成塾募集パンフ
（プロジェクト報告会） 里山の保全と循環する地域づくり講演会	プロジェクトの再認識と「里山の保全と循環する地域づくり」を目指し必要な知識を講演会等で養います。1年間を振り返る報告会を併せて開催します。	里山の保全と循環する地域づくり講演会募集パンフ

- * 個別支援・アドバイス制度は規定数となり次第、締切ります。
- * PCウインチは数に限りがありますので、お待ち頂く場合があります。
- * 様式No.①～⑤は出荷登録時に併せてお渡し致します。その他は随時郵送致します。

その他の活動

子供版きこりプロジェクト

実行委員会では、町内2校の中学校に毎年、里山保全を題材とした環境学習を提案しています。授業の一環（総合的な学習）に位置付けた林業体験（伐木・集材・出荷作業）を通して、かつて農村で当たり前だった循環型社会の営み（地産地消）を伝えています。



奥出雲で育つ
全ての子供達
に伝えるよ！

森の健康診断への協力

実行委員会では、森の混み具合を調査し健全な森づくりを提案する「森の健康診断」を後援することで、山林整備・間伐の必要性を呼びかけています。

